

動物の診察室

から

○ 55 ○

ゲンちゃんは、10歳の一番なのです。

日本猫、男の子です。5年前に去勢手術をした際の血液検査で、猫エイズウイルスと猫白血病ウイルスに感染していることが分かりました。

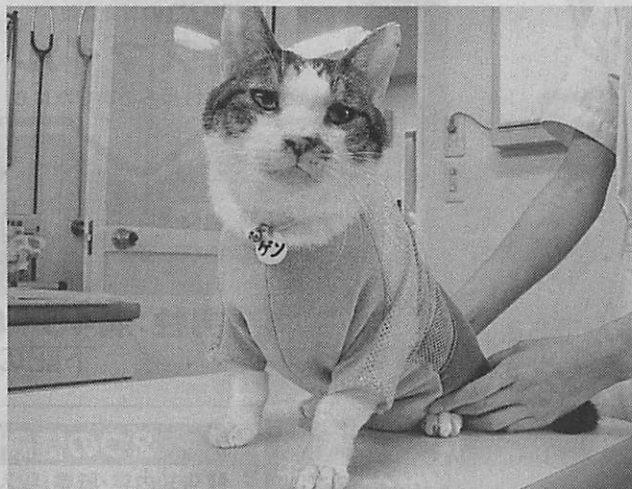
この2つのウイルスは、感染すると免疫力を低下させて、いろいろな症状を引き起こします。人には感染しません。

ゲンちゃんも慢性の鼻炎と、腎臓の機能が悪く

なっているために、現在は週に2回病院へ来ています。そして、これらの病気とは別に、ゲンちゃんも自分の体のあちこちを、毛がなくなるくらい舐めてしまい、皮膚炎になってしまいました。薬でのコントロールもあまり効果がないため、舐めるのをやめさせることが

げないよう工夫した特製の服をゲンちゃんのために作ってくれたので、袖を長くして、排尿にも支障がなく、ストレスなく着られる洋服が試行錯誤の末に完成しました。その服を着るようになってから、ゲンちゃんに傷を舐めてはいけな場合、首の周りにエリザベスカラーをつけるので

# 体を舐めず治療に専念



今日はメッシュの服のゲンちゃんです

すが、それをとてもしやがる猫もいます。ゲンちゃんの治療中にそんな話をしたら、数日後、ゲンちゃんのお母さんがゲンちゃん特製の服を何枚も持ってきてくれたのです。一枚一枚、お母さんが丁寧に縫ったものです。いろいろな猫ちゃんに着せられるように、「L」「M」「S」のサイズがあり、これまで、何枚も病院の猫のために洋服を作っては寄付して

来ています。いま入院している猫ちゃんもゲンちゃんの服を着ています。その猫ちゃんは胸に膿がたまる「膿胸」という病気で、胸腔内にチューブを入れて

